

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)



※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじん げきだんのぼら		団体ウェブサイトURL	
	一般社団法人 劇団野ばら		http://gekidan-nobara.com	
代表者職・氏名	代表理事 北川明光			
制作団体所在地	〒	203-0012	最寄り駅(バス停)	西武池袋線ひばりヶ丘
	東京都東久留米市浅間町2-9-8			
電話番号	042-439-9778			
ふりがな 公演団体名	いっばんしゃだんほうじん げきだんのぼら		団体ウェブサイトURL	
	一般社団法人 劇団野ばら		http://gekidan-nobara.com	
代表者職・氏名	代表理事 北川明光			
公演団体所在地	〒	203-0012	最寄り駅(バス停)	西武池袋線ひばりヶ丘
	東京都東久留米市浅間町2-9-8			
制作団体 設立年月	平成28年4月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 北川明光 理事 保坂淳 理事 大野俊郎		構成員10名 研究生2名 演技部6名 演出部1名 制作部2名 事務局1名 オーディション後、研究生として入団	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名		北川明光 山形重和
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者		山形重和
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@gekidan-nobara.com			

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>一般社団法人劇団野ばらの前進劇団野ばらは創作劇を作り続け全国の学校、委員会主催の芸術鑑賞会で高い評価をいただき実績を続けてまいりました。 2016年4月代表に北川明光が就任し、一般社団法人劇団野ばらとして現在に至っております。 劇団野ばら初期作品「ぞうとじゃがいも」から「小さな虫の大冒険」「三羽ガラス」「ともだち(厚生省児童福祉審議会推薦作品)」「サルと少年」「虫たちのファンタジー」「アリスがくれた不思議な時間厚生省児童福祉審議会推薦作品」等、全ての作品は「公益社団法人日本児童青少年演劇協会」主催の地方巡回公演に採択されております。 申請作品「山の風から聞いた話」は宮澤賢治の名作童話「どんぐりと山猫」「セロ弾きのゴーシュ」を構成劇として取り組み各方面より高い評価を頂きました。初めての名作童話の上演は、今後の劇団の方向性を模索する上で貴重な公演で、役者にとっても自信に繋がる内容となっている。 その取り組みの結果、令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業」に採択公演となる。</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>上演作品「あしたあさってしあさって」「山の風から聞いた話」 年度実績 令和元年度6月10公演、8月6公演、9月11公演、10月20公演、11月20公演、12月11公演 令和2年度5月5公演、6月10公演、9月5公演、10月18公演、11月19公演、12月7公演 令和3年度5月7公演、6月10公演、9月9公演、10月20公演、11月20公演、12月4公演 令和4年度5月5公演、6月12公演、9月12公演、10月19公演、11月10公演、12月3公演 令和5年度5月10公演、6月10公演、8月8公演、9月9公演、10月16公演、11月19公演、12月4公演</p>			
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>北海道立網走養護学校 北海道立紋別養護学校 石川県立七尾養護学校 福井県立福井養護学校 東京都立田無特別支援学校 大分県立中津支援学校 大分県立別府支援学校 大分県立日出支援学校 佐賀大学附属特別支援学校 佐賀県立中原鳥栖田代支援学校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>http://gekidan-nobara.com</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		3	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	18時	18時～21時	13時30分～15時	10分	15時～17時	17時半
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認 められません)	6月	7月	8月	9月		
	10月	11月	12月	1月		
	14日	18日	10日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	42日	
公演に係るビジュアル イメージ (舞台の規模や演出が わかる写真) ※採択決定後、図 面等の提出をお願い します。	<p>※舞台に必要な面積（平土間） 間口約7.2m×奥行き約8.4m</p>  <p>「どんぐりと山猫」</p>  <p>「セロ弾きのゴーシュ」</p>					
	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当なし		該当コンテンツ名		
許諾状況	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況		内部保有	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人 劇団野ばら 】

<p>ワークショップのねらい</p>	<p>長年、小学校を中心に、子供たちや先生に朗読劇を指導してきた、かめやまさんを講師に迎える。かめやまさんの指導は、先生のみならず子どもたちにも圧倒的な評価を得てきた。かめやまさんの指導を得て、奥深い宮澤賢治作品、その代表作ともいえる、『どんぐりと山猫』と『ゼロ弾きのゴーシュ』の世界を、朗読劇を通して、自分を自分らしく表現し、作品の世界を体感してもらい、公演本番の作品理解に繋げたい。</p>		
<p>児童・生徒の参加可能人数</p>	<p>ワークショップ</p>	<p>参加人数目安</p>	<p>40～50人</p>
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>主指導者 かめやまゆたか/補助者 村石陽子 北川明光 保坂淳 1, 子供たちの心と体をほぐしながら、声の表情を豊かに(15分) ①心と体をほぐすためのウォーミングアップをたっぷり行う ②声を豊かに、そして大きく出す 2, 朗読劇についての説明等(15分) ①ことばのキャッチボール(遠く離れて) ②声の表現の工夫 ③朗読劇の手法(丸イス等の使い方) 3, 『どんぐりと山猫』と『ゼロ弾きのゴーシュ』(かめやまゆたかワークショップ構成・台本)2グループに分かれての練習と発表休憩10分の後、50分 ※子どもたちには宮澤賢治の世界を「体感」してもらおうと共に、発表することにより、その「成就感」を与える 4, 公演本番では、2作品の公演前に、それぞれグループの発表を行う 上手・下手に約15人ずつ並び、朗読劇で作品の導入部分の発表を行う。</p> <div data-bbox="454 952 1133 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワークショップ後、児童の出演風景</p> </div> 		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>長年、小学校を中心に、子供たちや先生に朗読劇を指導してきた、かめやまさんを講師に迎える。かめやまさんの指導は、先生のみならず子どもたちにも圧倒的な評価を得てきた。かめやまさんの指導を得て、奥深い宮澤賢治作品、その代表作ともいえる、『どんぐりと山猫』と『ゼロ弾きのゴーシュ』の世界を、朗読劇を通して、自分を自分らしく表現し、作品の世界を体感してもらい、公演本番の作品理解に繋げたい。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 一般社団法人 劇団野ばら】

①本事業に対する取り組み姿勢

宮澤賢治の書いた物語や詩は、すでに好きな人もいますし、まだ読んでいない人もいます。日本人であれば学校の授業で、一度はその作品にふれるものです。原文を舞台の表現を使ってわかりやすく子どもたちに伝えたい、子どもたちに賢治の世界を知るきっかけにしたい、そんな思いで申請いたしました。素敵な絵本や童話を読めば、頭の中にその映像が浮かびます。その映像が表現力につながれば嬉しいです。劇団創立以来のテーマである「生きていることよこびを、今生きている子どもたちと共有できる舞台をつくりたい」は、「山の風から聞いた話」でもつくることができます。原文の持っている世界を子どもたちに伝えるこの試みが、児童のみなさんの心の窓を間違いなくノックすることでしょう。そして、ある子どもは学校の図書室の扉を開けることでしょう。

○鹿児島県で実施しました(公社)日本児童青少年演劇協会主催「児童青少年演劇地方巡回公演」でいただいた感想文を紹介いたします。令和2年11月いちき串木野市立照島小学校二年生 わたしは、前は、そんなに本がすきではありませんでした。でも、げきだんのばらのみなさんのおかげで、本がすきになりました。げきだんのばらのみなさんにだけにできるちからを、またみせてください。そしてまた、みんなをえがおにしてください。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

表現をすることの楽しさ、うれしさを児童の皆さんに体験してもらえるワークショップにいたします。学校に事前に伺い、綿密な打ち合わせをおこないます。学校長・教頭(副校長)・担当教諭に上演のテーマ、ワークショップのテーマと内容、公演の内容を話し、確認を取ります。また、客席の作り方についても詳しく学校と打合せをおこないます。(フロアで劇をおこなうため客席に50～100席くらいの椅子席を、床に座る児童の左右両側と後ろ側に設けます)ワークショップでは、児童だけではなく先生にも参加していただきます。先生も一緒にやることで公演前には、児童のみなさんと舞台で共演するためのリハーサルをおこない、私たちと気持ちが打ち解けた中で、万全な準備を整えて本番にのぞみます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫